

03

すべての子どもに与えられるべき物資

2017年、ユニセフの物資支援は、保健サービスや栄養、安全な水や教育など、当然与えられるべき不可欠な物資やサービスが入手できない子どもたちの生命線となりました。記録的な数の子どもや若者が人道支援を必要とした2017年、ユニセフはパートナーとともに、紛争や自然災害、病気の蔓延や極度の貧困に苦しむ人々に必要な物資を届けるため、たゆまず活動を行いました。

下：ナイジェリア・ボルノ州マイドゥグリの
ユニセフ貯蔵施設に運ばれてきた栄養不良
治療用食品の箱を運ぶスタッフ

©UNICEF/UN0119083/Sokhin

2017年、子どものために必要な支援を世界中の現場に届けるため、ユニセフが調達した物資とサービスは総額34億6,000万ドルに上ります。このうち、14億4,000万ドル分の物資は、各国政府などのパートナーに提供する開発協力の仕組みである調達サービスを通じて110カ国に配布されました。

またユニセフは、子どもたちが生きるために必要な物資が持続的に入手できるよう、保健システムを中心に、サ

プライチェーン（供給経路）の管理体制を改善するための各国政府の取り組みを支援しました。それには、運用するための戦略やツールを提案・実行することが含まれます。

ユニセフは、競争や、透明性を確保し、物資ニーズの予測や、特別融資、革新的で多様な入札の導入とパートナー連携の強化を図る物資戦略を掲げました。2017年、これらの改善により、供給の安定化や、物資供給基盤の

強化、さまざまな物資やサービス（ワクチンなどの医薬品、貨物輸送や保険など）の低価格化が実現しました。この結果、2017年1年間で推定3億9,460万ドルのコスト削減を実現し、2012年以降の累積削減額は20億ドル以上に達しました。

2017年のユニセフの物資支援活動の重点を以下にまとめました。



緊急支援物資を届ける

2017年下半期、何十万ものロヒンギャ難民（その約60%は子ども）がミャンマーでの迫害を逃れ、国境を越えてバングラデシュに流れ込みました。ユニセフは、難民と受入先コミュニティの人々を支援するため、800万ドル以上の緊急教育物資や、水と衛生物資、保健物資（ワクチン790万回分など）を提供しました。

ユニセフの物資供給部門はまた、ユニセフ・バングラデシュ事務所の物資配布を支援するため、輸送機3機を手配し、また、バングラデシュのкокクスバザールに点在する難民キャンプと首都ダッカに物流管理の専門官を派遣しました。

一方、シリアでは2017年、子どもや若者への人道支援が繰り返し妨げられましたが、そうした状況にもかかわらず、ユニセフは重要な緊急支援物資を無事届けることができました。こうした支援物資の届け先には、化学兵器による攻撃を受けたとされるイドリブ県も含まれています。

イドリブに届けられた解毒薬（アトロピンやプラリドキシムなど）の緊急支援に加え、すぐに口にできる栄養治療食（RUTF）、高カロリービスケット、下痢治療セット、救急医療キット、微量栄養素パウダーなど、5,900万ドル以上の緊急支援物資がシリア国内の紛争地域に届けられました。

安全な水と衛生

気候変動や移民・難民の大規模な移動、2件の大規模なコレラの集団発生などが生じた2017年、ユニセフは1億920万ドル分の安全な水と衛生物資を調達しました。

衛生キットの需要が急増し、350万個以上（2016年より230%以上増）の調達が行われました。また、浄水剤の調達数も17億個近くに上り、このうち9億6,000万個以上がコレラ危機対策のためにイエメンで配布されました。

コンゴ民主共和国のカサイ州では、紛争に端を発した難民・避難民への対応として、水と衛生の物資を中心に370万ドルの緊急支援物資が支給されました。

子どもの栄養と食事療法による治療

2017年にユニセフが調達した23億4,000万ドルの救命物資のうち、栄養物資は約2億2,000万ドルで、2016年より46%増えました。

栄養物資が急増した主な原因は、ナイジェリア、ソマリア、南スーダン、イエメンの緊急支援に必要なためです。急性栄養不良に苦しむ子どものため、5万2,850トンのRUTFを調達。うち55%は支援国内で現地調達しました。従来RUTFはすべて欧州から調達していましたが、現地市場の育成を図る長期的な取り組みの結果、こうした現地調達が可能となりました。

また、50カ国あまりの国々では、家庭での日常生活を通じた栄養改善のため、微量栄養素パウダーを11億8,000万袋以上、ビタミンA補給剤を5億5,400万個調達。80%以上はニュートリション・インターナショナルからの現物寄付でした。

ワクチンと関連物資

2017年、ユニセフはパートナーとともに定期予防接種キャンペーンを計画し、感染症の集団発生に対応するため6種類のワクチン接種を行いました。これらを合計すると、世界全体の5歳未満の子どもの45%をカバーするワクチンを調達したことになります。

こうしたキャンペーンが重要なのは、イエメンなどの危機に瀕している国だけではなく、都市部に住む子どもにとってはもちろん、ブラジルの黄熱病やマダガスカルのパストの集団発生の影響を受けた子どもなど、以前は感染リスクが高いとされていなかった子どもにとっても重要です。



GAVI アライアンス（ワクチンと予防接種のための世界同盟）の支援物資も調達しているユニセフは、GAVI 事務局や世界保健機関（WHO）、ビル&メリンダ・ゲイツ財団と密接に協力し、ワクチンのほか、予防接種器具、使用済み注射器を安全に処理するためのセーフティボックス、ワクチンを保冷して輸送するためのコールドチェーン機器などの関連物資も調達しました。2017年、こうした協力を通じて、調達したワクチンは102カ国で24億4,000万回分、金額にして13億2,000万ドルに上りました。

GAVI アライアンスの支援から卒業する過程で、短期的に資金的・技術的な問題に直面し、ワクチンが確保できなくなる国もあります。ユニセフは2017年、こうした国々でワクチン供給が途切れないようにするため、調達システムの強化などの支援を重点的に行いました。

教育におけるインクルージョン

2017年、ユニセフが調達した教育物資は世界全体で7,240万ドルに上ります。特に、ハリケーンに襲われたカリブ海諸国やロヒンギャ難民が流入したバングラデシュにおいて、教育物資の需要が大幅に高まりました。

2017年の一年間で、レクリエーションキット2万8,000個、幼稚園キット1万7,000個、標準教材キット5万2,000個、国別教材キット3,000個を調達し、64カ国に支給しました。

こうした物資は、最も弱い立場にある子どもや若者のインクルージョンを促進するためにも活用されました。例えば、ジンバブエでは、障がいのある子どものための補助教材について調査を実施し、耳掛け型デジタル補聴器を調達しました。また、紛争の影響を受ける国でも、若者が自分の意見を言う機会を持てるようにするため制作された青少年キットの実地試験も行われました。

左上：ハリケーン「マシュー」襲来直後の2017年9月、避難所で衛生・尊厳回復キットを受け取る家族ら（ドミニカの首都ロゾーにて）

©UNICEF/UN0127075/Moreno Gonzalez